

沼津市青少年教育センター

たより

平成25年4月号 No. 501

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

自然遊びの文化の伝承

教育長 工藤達朗

孫が遊びに来た時、一緒に散歩しながら残念に思ったことがあります。目の前に遊びに使える草花があちこちにあるにもかかわらず、そのまま通り過ぎてしまうのです。孫を呼び止めて、近くに生えていたペンペン草（ナズナ）でペンペン太鼓を作って音を出したところ、大変興味を示しました。早速、孫も作り、二人で音の大きさを競って楽しみました。

孫の家の周辺は自然環境に恵まれ、子ども達が遊び回っていますが、見ていると縄跳びやブランコ、滑り台などで遊んでいます。今時、子ども達が群れて遊び興じているだけでも珍しいのかもしれませんが、一昔前にはよく見られた木登りや泥んこ遊びをしている姿は近頃見かけません。子ども達の間で「自然遊びの文化」が伝わっていないことに一抹の寂しさを感じました。

私の小学校時代は、ススキの葉を二つに裂いて芯の部分飛ばしたり、木に登ってシイの実やホイチゴを貪り食べたりしました。どの木の実が美味しいか熟知し、おやつ代わりにしたことも懐かしく思い出します。垣根の若葉を取り、丸めてから口先を少しつぶして吹く草笛は、葉っぱを細く丸めれば高い音が、太く丸めれば低い音が鳴ります。これらの自然遊びは、誰から教えてもらったのか全く記憶にはないのですが、たぶん群れて遊んだ仲間や先輩からの伝承があったに違いありません。

この様な自然遊びの体験から身に付けた知識や知恵については、その後の学校の授業で理論的な裏付けを教えていただきました。物理の時間に「音」に関する理論を習い、草笛の丸める太さによって音色が変わったことを思い出して納得したことを今でも鮮明に覚えています。

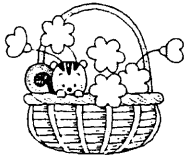
しかし、近年は少子化や環境の変化により、学校の授業で教科書にある知識が先に教えられることが多くなりました。そのため、子どもの納得した理解につながらず、せっかく学んだ知識が、実際の生活や遊びの中で活用できていないように思います。

平成26年4月に開校予定の静浦小中一貫学校では、校舎の間近に「静浦の森」を作る予定です。主に1・2年生の生活科等で利用する教材園として位置付け、1年を通してミカンやビワ、キンカン、ブルーベリー等の様々な木の実を収穫したり加工したりすることができるようにします。また、足下にはレンゲやクローバーの花が咲き、子ども達は地面に顔を近づけて四つ葉のクローバーを真剣に探したり、冠や首飾りを作ったり、アリやシジミチョウ等の小さな昆虫や生き物を見つけつかまえて遊んだりすることでしょう。木の実に集まってくるいろいろな小鳥も観察できます。

「静浦の森」は異年齢の子ども達の自然遊びの伝承の場であるとともに、子どもと様々な生き物をつなぎ、四季の変化を楽しみながら自然や命を大切にしようとする心情を育む場にしたいと考えています。まさに、自然を学ぶ素晴らしい教科書にしたいと考えています。

子どもの頃の、この様な自然の中での遊びにはお金も準備も不要な上、豊かな心と創造性が生まれ、健全な青少年に成長するに違いありません。現代は、昔のような子ども同志による自然遊びの文化の伝承は難しい状況にあります。周囲の大人や教員から、子ども達に伝授していただき、それが、少しずつ子ども達の中に広がっていくことを願ってやみません。

最後に、日頃お忙しい中で、青少年の健全育成に関わってくださる多くの方々にお礼申し上げますとともに、今後ともご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



当たり前の子育て支援を

沼津市市民福祉部子育て支援課 笹井 康治

全国的に少子高齢化が進んでいます。沼津市でも0歳児人口は約1,400人と最も人口の多い63歳の人口約3,700人の4割程度という現況です。この状況を少しでも食い止めようと様々な施策を講じていますが、大幅な改善は見込めず市の将来予測でも2020年には189,500人と約1万5千の人口減少が見込まれています。

少子高齢化は、経済面で大きな影響を与え、身の回りを見ても若年者の雇用不安や年金支給開始年齢の引き上げなど、その影響ははっきりと目に見える形となっています。

子育てにも大きな影響を与えており、近所に子どもがいない、祖父母は現役で育児の応援をしてもらえないなどの環境の変化に加え、子どもを産むまで赤ちゃんを抱いた経験がなかったという母親も少なくないなど生活経験についても変化しており、その結果「子どもの数は減っているのに反比例して児童虐待は年々増加する」といった状況になっているとしたら困ったことです。

このような状況に対応して市では「子育ては親だけでなく社会も担う」ための施策を進めており、市内9か所の子育て支援センターを拠点に地区センターなどを巡回する「子育てサポートキャラバンびよびよ」などきめ細かく子育て支援が届くように努めてきました。

勿論、行政だけで子育て支援が担えるわけではなく、地域の多くの方に支えられています。特に、地域を巡回する「びよびよ」では、会場設定から駐車場誘導まで地域の方の協力を得ており、参加者から毎月顔を合わせる中で孫のようにかわいがってもらえとてもうれしかったという声が聞かれたり、同じマンションに居住していることを会場で初めて知り交流が始まったということを目にしたりすることもあります。

子育てには、人と人との交流が大切であることは昔も今も変わらないのです。そのことを今の時代に合ったかたちで創っていきたいと考え、昨年4月にぬまづ子育てボランティア「あそび隊」を立ち上げました。

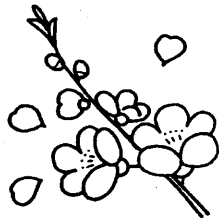
親子連れに笑顔と声掛けをするとといった当たり前のことで子育てを応援していきたいと思ってもらえる方なら誰でも大歓迎です。また、具体的なボランティア活動に取り組みたいという方には活動場所の相談や紹介もしており、これから親世代になる若い世代にも関わってもらいたいという思いから中学生から参加ができるようにもしました。

おかげさまで登録者は1年目の目標としていた500名を超え、若い世代の人たちにも参加してもらおうこともでき、今までなかった活動も行われるなど成果もあがってきています。

このような活動を手掛かりに少子高齢化で失われてきてしまったかもしれない社会の子育て支援力を新しい形で創造することと、赤ちゃんを抱いたことがないという若い世代が一人でも少なくなり、子どもも親も安心して暮らせる沼津市に一步でも近づければと思います。

※あそび隊に関心を持たれた方は、市役所子育て支援課（934-4826）か沼津っ子ふれあいセンター（952-8077）にお問い合わせいただくと幸いです。

面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
 青少年に関する面接相談。
 ◎相談および申し込み受け付け時間：
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎相談申し込み：Tel 951-3440

平成25年2月・3月の状況

2・3月には新たに申込みがあった9件（2月5件、3月4件）を含め、
 57件（延べ相談回数237回）の相談に応じました。

1. 相談内容別新規相談件数

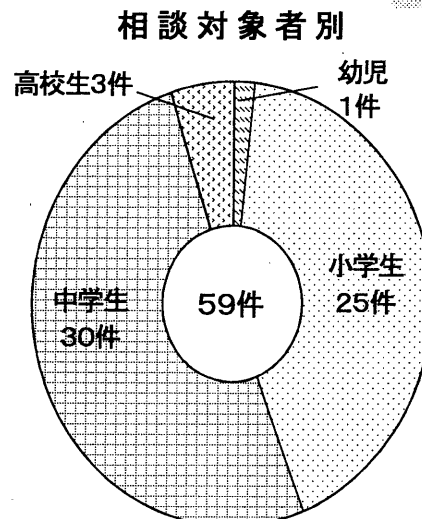
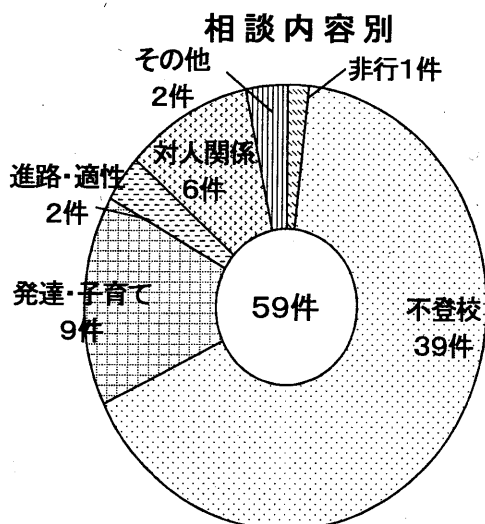
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
2月	0	4	1	0	0	0	5
3月	0	2	2	0	0	0	4

2. 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
2月	0	3	2	0	0	0	5
3月	0	4	0	0	0	0	4

3. 今年度の新規相談受付状況

受付件数 59件 （前年同期 77件）



4. 2・3月に応じた相談件数（新規相談＋継続相談）

対象	性別	非行	不登校	子育て・発達	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		3	4				7
	女		5	4				9
中学生	男		15	4		1	1	21
	女		6	1		3		10
高校生	男		1			2		3
	女		1					1
少年	男				2	2		4
	女				1			1
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	0	19	8	2	6	1	36
	女	0	12	5	1	3	0	21
男女合計		0	31	13	3	9	1	57

5. 2・3月の相談回数（57件の相談に要した延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
2・3月	男	95	5	56	156
	女	53	0	28	81
	計	148	5	84	237

相談指導学級  学級担当 

平成24年度は、24名の小中学生が通級しました。通級日数に違いはありますが、通級時には、全員がさまざまな活動にまじめに取り組んでいました。

午前中2時間の学習活動では、こちらが感心するほど一生懸命に自主的な学習を行いました。午後の時間は、木工や絵画制作、パズルなど多彩な創作活動を行うとともに、ゲームなどを通じたコミュニケーション力をつけるための活動にも、個人差はあるものの積極的に参加することができました。また、週に1回程度用意した体験活動にも多くの参加があり、日常の活動とは異なった実際の体験を通してさまざまなことを学び成長することができたと思います。

これらの活動を通じて、学校へ復帰することができたり、また、そこまでは行かなくても、通級の間に明らかな成長が見られたりしたことは素晴らしいことです。さらに、通級生の半数近くをしめた中学校3年生のほとんどが高等学校への進学を果たすことができたことはたいへん喜ばしいことでした。

電話相談

◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など、青少年に関する相談。
 ◎相談時間：午前10時～午後7時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 愛称：やまびこ電話 951-7330

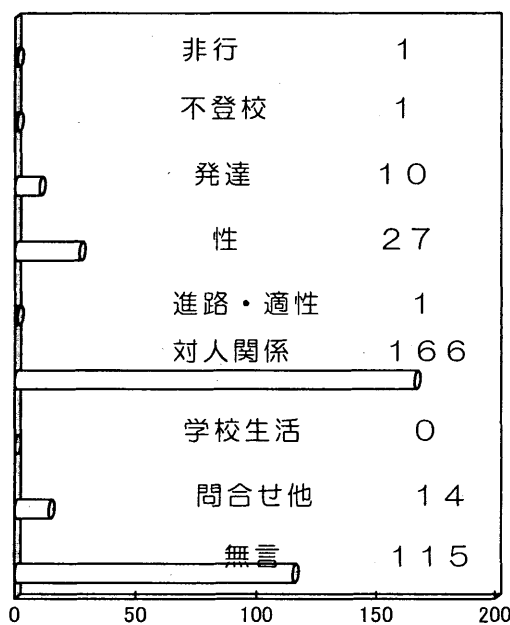


平成25年2月・3月の状況

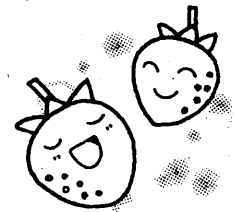
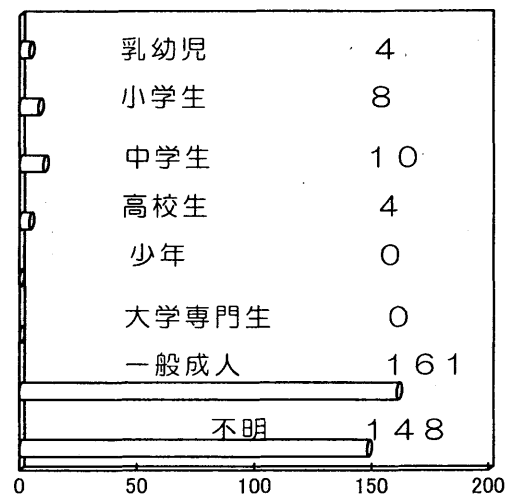
2月には189件、3月には146件の相談が寄せられました。
 （前年2月：260件、前年3月：164件）

1. 2・3月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



2. 今年度の電話相談受信件数状況(平成24年度)

総件数 2,310件（前年同期 1,900件）

(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	2	11	49	140	18	1,241	34	117	698

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	34	53	67	22	3	3	1,323	805



「街頭補導をしていて思う事あれこれ」

母親補導委員 小針 千絵美

沼津市の母親補導委員になって三年目になりました。初めは役を受けたものの、自分自身が学生時代、独身時代、現在もゲームセンターやカラオケ等、巡回するような所へは、余り行った事がなく少しドキドキ。まして私は背が低いので長身の高校生に囲まれたりしたらと、少し不安でしたが、メンバーに恵まれ楽しく巡回しています。母親補導は火曜日の午後2時30分からという事もあり、あまり子ども達を見かけません。高齢の方や小さな子供を連れた若いお母さん等が多くなって来た様に感じます。

では子ども達はどこへ行ったのでしょうか。決してゲーム人口が減っている訳ではありません。今はゲームセンターにわざわざ行かなくても自分の部屋で手軽にゲームが出来ますし、会わなくても、携帯やメールで友達と連絡が取れるのです。ゲームセンターに行かなくなったから親は安心して良いのかということそうでもなく逆に何をしているのか分からない状態になっているのではないのでしょうか。極端な話、以前より気を配らなければ何をしているのか、部屋に居るのかも知らない、1日顔もまともに見なかった日も有るかもしれません。

巡回しながら感じるのは、やはり子どもを育てるのも守るのも親なんだという事です。子どもが成長するにつれ、常に見ている訳にはいきませんが関心を持って見守る事が大切だと思います。いろいろ質問責めにしなくても、声を掛けた時の返事や顔色を見れば、健康状態はもちろん、機嫌が悪いとか、心配事が有るのかとか親として気付き、手を貸してあげられる事が見つかると思います。又、時には子どもから話してくれるのを待ったり、相談ができる親になる様に心掛けたいです。私も子どもと話をしていると、少し違うのではと思う事も時々あるのですが、すぐ否定しないでこんな考え方もあるんだ、こんな事考えていたんだと受け止めてから、いろいろとアドバイスをする様にしています。そうすると知らなかった子どもの一面が見えてきて、嬉しく思う事がよくあります。

これからも子どもの成長に応じた子育てを楽しみましょう。

1. 少年補導委員の延べ参加人数（2月・3月）

区別	市職員		教員		地区補導委員		女性補導委員		母親補導委員		警察関係		総数	
	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月
人数	10	9	25	10	277	321	10	9	4	3	3	1	329	353

2. 補導回数・補導状況（2月・3月）

	補導回数				声かけ 注意・指導	事後指導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
2月	3	12	34	49	168	0	0
3月	3	9	40	52	118	0	0

3. 平成24年度 4月からの補導活動累計

補導回数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事後指導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
535	3,894	1,798	0	0

2月・3月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

高校入試の季節。私立高校の受験日の朝、緊張した面持ちの中学3年生たちが先生に引率されて、試験会場に歩いて向かう姿を出勤途中で見かけました。その日の夕方、補導活動でゲームセンターに入ると、楽しそうにゲームに興じている試験を終えた中学3年生の男の子たちの姿がありました。様々な顔を持っている青少年。その時その場の顔に応じた声かけを心がけなければと、改めて思わされてしまいました。

学 職 別 区 分		性 別	小 学 生	中 学 生	高 校 生	そ の 他 学 生	有 職 少 年	無 職 少 年	計	四 月 からの 累 計
行 為 種 別	飲 酒	男							0	0
		女							0	0
	喫 煙	男			2		1		3	5
		女			1				1	1
	夜 間 は い か い	男		4	1				5	31
		女		2	5				7	30
	不 良 交 友	男							0	0
		女							0	0
	怠 学 ・ 怠 業	男							0	3
		女							0	1
	ゲ ー ム セ ン タ ー 入 場	男	4	19	79		3		105	501
		女	1		32				33	226
	パ チ ン コ 店 入 場	男							0	0
		女							0	0
カ ラ オ ケ 店 入 場	男			2		1		3	57	
	女		2	5				7	124	
自 転 車 の 暴 走 行 為	男							0	6	
	女							0	0	
自 転 車 の 二 人 乗 り	男		1	2				3	34	
	女		1					1	16	
自 転 車 の 無 灯 火	男		4	4				8	64	
	女		2	1				3	23	
危 険 な 遊 び	男							0	17	
	女							0	3	
そ の 他	男	5	1	37	7	3		53	360	
	女		1	53				54	296	
計		男	9	29	127	7	8	0	180	1,078
		女	1	8	97	0	0	0	106	720
男 女 合 計			10	37	224	7	8	0	286	1,798

事 後 指 導	家 庭 ・ 学 校 ・ 職 場 へ 連 絡	男							0	0
		女							0	0
指 導	他 機 関 へ 連 絡	男							0	0
		女							0	0
合 計			0	0	0	0	0	0	0	0

補導とは…

補導とは、ある書物によると、「青少年問題に關与する諸機関が、なんらかの問題をもつ青少年などに対して、一般教育（家庭教育、学校教育、職業教育、社会教育など）を補充する形で行う教育福祉的活動をいう。しかし狭義には、政府の青少年対策の重要な一環とされる非行防止活動のうちで、少年係警察官や婦人補導員などの警察職員が民間人や民間組織（児童相談所、福祉事務所、教育委員会など）の協力を得て行う、非行など問題のある青少年に対する指導・助言・相談などの活動を指す。」とある。

奈良県では「奈良県少年補導に関する条例」が制定されている。条例では、喫煙、飲酒、公営競技券購入、売春、暴力行為の恐れ、凶器所持、金品要求行為、金品無断持出行為、不純異性交遊、暴走行為、薬物乱用、家出、暴力団や暴走族との交際などに該当する少年を非行少年として補導できると規定されている。

しかし、奈良県以外では補導には明確な要件や手続きが定められておらず、警察の恣意的な判断による補導も多く、誤認補導が多いとの指摘や未成年者の権利を不当に侵害する制度だという指摘もある。

青少年教育センターで行う補導は、街頭などでの少年等に対する注意助言、声掛けである。



センターの活動予定 (5月・6月の主な活動予定)

日 程	活動（行事）予定	日 程	活動（行事）予定
5月30日（木）	新任補導委員研修会（地区）	5月 9日（木）	体験活動はばたき
31日（金）	新任補導委員研修会 （女性・母親・教員）	23日（木）	浮島沼自然観察
		30日（木）	高校見学1
		6月13日（木）	さつまいも苗植え付け
		20日（木）	香貫山ハイキング
			高校見学2
			※天候等諸事情により、内容・行先等を変更することがあります。

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成シンボルマーク

青少年健全育成都市宣言（昭和55年）



あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート（心）を表しています。